

## ◆ おわりに ◆

図書館 森園佳子

読プロが活動を始めたのは 2002 年。過去、文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム（特色 GP）」に採択され多額の補助金を受けたころは、著名な作家の講演会を開いたり、音楽学部とのコラボでコンサートを開催したりしたと、当時の担当職員から読プロ黄金時代の話をたびたび聞かされました。そして現在、発足からかれこれ 15 年が経とうとしています。今のメンバーは発足当初のことはもちろん、その後の華々しい時代も全く知らない学生ばかりですが、彼女たちは司書の私も嬉しくなってしまうほど嬉々として本と接し、作品について語り合い、物語を味わっています。そんな姿を目にするたびに、大々的なイベントはできなくてもなんとか工夫して、読書に興味を持つ学生を増やしていきたいという気持ちが沸々と湧いてきます。

「読書はあまりしたことがないし、本は買うと高いし、図書館で借りても持ち歩くのは重いから」という理由で本から遠ざかっている若い人もいるかもしれません。しかし、今やスマートフォンを持っていない大学生はいないでしょう。私個人としては紙の本にこだわりがありますが、機械で読書をすることに抵抗がない人はスマホやタブレットで読めばよいわけですから、まずは電車の中で SNS の画面を開く代わりに、「今日は無料の読書アプリで何か読んでみようか」と思い立ってもらえるようなきっかけ作りが重要なのです。読プロが作り上げてきた伝統は大事にしつつも、学生のニーズや時代の変化に合わせてそのアプローチの方法や内容を臨機応変にアレンジし、一人でも多くのフェリス生に「本っていいものだな」と思ってもらえるような活動がしていけたら嬉しいことです。

今年度も多くの方々のご支援をいただき、一年間を終えることができました。支えてくださった皆さま、ありがとうございました。今後とも読書運動プロジェクトと活動に携わる学生へのご支援、ご協力をどうぞよろしく願いいたします。